

B 22 ストレッチ編布の着用時における変形挙動について
就実短大。赤木陽子 佐藤典子

目的 ストレッチ編布の着用実験と伸長特性の測定の結果、伸長特性と着用感には密接な相関が認められたが¹⁾、本研究においては、異なる伸長特性を有し着用感も異なる試料を用いて、着用時における変形挙動を捉え、伸長特性の差による変形挙動の差とさらには体型の差による変形挙動の差について検討を加え、ストレッチ編布の伸長特性と着用感について考察するためのデータを得ることを目的とした。

方法 あらかじめ2cm間隔の格子状の基本線を記入しておいたインターロック(ナイロン100%)とハーフトリコット(ナイロン84%、ポリウレタン16%)のレオタードを使用し、3人の体型の異なる被験者による着用実験を行ない、着用による格子状基本線の長さの変化を測定し、変形量および変形率を求めた。着用感は大きな動きを伴わない場合においてもある程度決定されていることから、測定は立位正常姿勢時について行ない、又試料はデザインによる影響をできるだけ省くため同じパターンのもので使用した。

結果 体の各部によって変形量・変形様式には大きな差がみられ、体軸方向については肩部、前中央部、腰部、股部での変形が大きく、中方向においては胸部、胴部、腰部等に変形量が大であった。又体型によってその差は大きく変形挙動も異なり、素材の差による変形挙動にも大きな差が認められた。又肩部、股部については一軸拘束、一軸伸長様式に近く、着用感を考える場合、着用状態における材料の変形挙動を考慮して評価する必要性が認められた。

- 1). 赤木・佐藤：日本繊維製品消費科学会昭和57年年次大会研究発表要旨、P17